

令和4年度第1回臨時理事会議事録

日時 令和4年6月25日 11:00～13:00

会場 都市センターホテル+Web（ハイブリッド開催）

出席者：

理事長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

理事：青木 陽一、岡田 英孝、大須賀 穰、岡本 愛光、亀井 良政、工藤 美樹、小林 陽一、
柴原 浩章、杉浦 真弓、関沢 明彦、中井 章人、永瀬 智、前田 長正、増山 寿、
万代 昌紀、三上 幹男、横山 正俊、吉田 好雄、若槻 明彦、渡部 洋、渡利 英道

監事：藤井 知行、増崎 英明、八重樫 伸生

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：川名 敬、宮城 悦子、横山 良仁

専門委員会委員長：寺内 公一、寺田 幸弘

幹事長兼第75回学術集会プログラム委員長：矢内原 臨

副幹事長：山上 亘

幹事兼第74回学術集会プログラム委員長：矢幡 秀昭

幹事：池田 悠至、泉谷 知明、井上 大輔、井平 圭、桑原 慶充、小出 馨子、古宇 家正、
小松 宏彰、佐藤 健二、高江 正道、竹中 将貴、徳永 英樹、中川 慧、永松 健、
野口 靖之、福原 理恵、細川 義彦、森定 徹、山口 建、安岡 稔晃

議長：久具 宏司

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：岩下 光利、中林 正雄

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔

午前11時00分、理事長、副理事長、理事の24名全員が出席（生水真紀夫理事は欠席）し、定足数に達したため木村正理事長が開会を宣言した。木村正理事長が議長となり、議事録署名人として、木村正理事長、及び藤井知行監事、増崎英明監事、八重樫伸生監事の計4名を選任し、これを承認した。

I. 令和4年度第1回理事会議事録の承認

令和4年5月28日に開催された令和4年度第1回理事会議事録を承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務（青木大輔副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ① 島本郁子^{しまもといくこ} 功労会員（奈良）が6月9日にご逝去された。

(2) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

① 会議開催

令和4年度 第1回生殖・内分泌委員会 (Web会議)	7月中【予定】
----------------------------	---------

② 第74回日本産科婦人科学会生殖・内分泌委員会企画

「生殖医学にいま必要な情報とみなさまと考えたいこと」に関して、事前に会員より質問を募集している旨を7月にメーリングリストで再度案内をする予定である。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 会議開催

婦人科癌取扱い規約病理編改訂初校後会議 (Web会議)	7月4日【予定】
令和4年度 第2回婦人科腫瘍委員会 (Web会議)	8月29日【予定】

② 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮頸がんに限る) 指針改定案、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮頸がんに限る) 登録施設施行規則改定案について [資料: 総務 1, 1-1]

永瀬智委員長「現行の規定では、IA1からIIA1を対象としています。一方で子宮頸癌のIA1期に対しては、ガイドラインその他でも単純子宮全摘が推奨されています。IA1期の診断がつけば、開腹でせざるをえないという状況になっています。その点でいろいろ意見が寄せられており、腫瘍委員会で協議しました。資料総務1にある新旧対照表5番のところですが、今まではIA1・IA2・IB1・IIA1期となっていたが、これも進行期を現行の日産婦2020に合わせる形で改定しました。もう一つのポイントが7番ですが、登録施設が保険診療で手術を行っていいということでしたが、この登録施設を、登録施設Aと登録施設Bに分けました。登録施設Aというのは現行の状況と同じものです。一方で登録施設Bというのは、IA1期だけを保険診療でできる施設という設定にさせていただいた案を考えました。例えば、7番のところでは3例以上というのは、登録施設Aというのは現行のままです。腹腔鏡下広汎子宮全摘出術を3例以上やるといいますが、登録施設Bでは、「当該術式を3例」と取って当該術式に該当する手術ということにさせていただきました。大きな点としては、今申し上げたように登録施設AとBに分けて、Aは現行の条件でBに関しては、IA1期のみを対象とするということになっています。資料53ページからの改定案とした場合の修正が新旧で結構大きな違いがありますので、改定案とした指針がこれになります。55ページからは指針についてというものがこのように変わることが提示されています。ホームページ上でも同じように公開するという事です。総務資料1-1、2ですが、実際の規則を改定させていただきました。これも新旧対照表になっており、第6条のところですが、今度ウェブでの電子申請が可能になることを見越し、電子申請での対応も可能としています。また、紙での申請も可能として残しております。本日この理事会で、この登録施設AとBに分けて運用するということを確認いただいたら、この後は日本婦人科腫瘍学会、及び日本内視鏡学会の担当の先生方にも相談してお諮りしたい。尚、ここに案を出す前に二学会の関係の先生方に、この方向性については了承を得ているということをお知らせします。」

木村正理事長「登録施設を二段階に分ける、IA1だけを別扱いをするという方向性でございます。特にご異論なければ、この形で進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③ 体がんロボット手術指針改定案について

[資料: 総務 2]

永瀬智委員長「次に③の体がんロボット手術指針改定案です。これは総務資料2です。ロボット支援下手術は、今までダヴィンチの機器だけだったわけですが、今後様々な機器が承認される予定であ

り、それを見越しての改定案となっています。具体的な内容としては、あまり大きな違いはないですが、新しい手術機器の承認を見越しての改訂ポイントです。従来のは、ダヴィンチだけに限定していた内容でしたので、登録その他のところも合わせて修正しました。資料76 ページに、ダヴィンチだけではなくてメディカロイドなども加えたということになります。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

④子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌それぞれの取扱い規約病理編のドラフト第2稿について、評価委員会で評価を行い、本会理事からも多数の貴重なコメントをお寄せいただいた。図譜の調整も併せて行い、8月以降に最終稿を提出する予定である。

永瀬智委員長「ありがとうございます。理事の先生方には、規約の改訂案をお送りいたしました。子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌の取扱い規約病理編ドラフト第2稿をお送りしたわけですが、多数の貴重なコメントをいただきましてありがとうございました。この中で大きな違いについてもう一度ご説明しますが、ポイントとなる点が卵巣腫瘍に関して、今までは高異型度漿液性癌で卵管と卵巣に病巣があった場合、腫瘍の大きい方で判断して卵巣癌という診断をしていましたが、これからの規約では、例えば卵巣にSTIC、上皮内病変があつて、卵巣腫瘍があれば、病名として卵管癌になるということが大きな違いになります。この点も含め、ご意見をいただきたい。今後は少々混乱が出るかもしれませんが、このような改定になった後は学会等で十分周知し、少し時間をおいて、登録に関しては2024年頃からの切り換えを考えています。もちろん、まだいろいろな意見があろうかと思しますので、何かあればご意見いただきたい。」

木村正理事長「いかがでしょうか。」

小西郁生顧問「その案に反対いたします。WHO分類でも ovarian cancer に入れています。世界中の動向が全部それに従っているわけではないので、日本だけがそれにすると、卵管癌だけ増えてくるという状況になり、世界の統計との差異が出るのではないかと考えています。WHO分類の全体像をよく見ていただきたい。Ovarian cancer の中に HGSC を全部含めており、一方、そのような症例を Tubal cancer には含めておりません。従いまして、それに関しては反対いたします。」

木村正理事長「ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。」

万代昌紀理事「質問ですが、登録の段階で大きさを記載する等しておけば、いざとなると旧分類にもできるということでしょうか。」

永瀬智委員長「まさにその点も、登録小委員会で議論しております。登録のところでの運用は可能だと思います。ただ診断が、施設によってどちらの診断になるかが非常に大きな問題になりますので、そこだけは混乱しないように考えております。」

青木大輔副理事長「今、永瀬委員長が後半におっしゃったことですが、1つの施設で1症例に対して2つの診断が動くというのが、非常に混乱を招くのではないかとこのように思いますので、議論は幾らあってもいいと思いますが、最終的な診断は一つにして頂きたい。がん登録等々のことを考えると、従来のを踏襲して頂きたいと考えます。病理の先生方の発言力が強いのもよく分かりますが、最終的に治療をするという観点では、婦人科医が担当していますので、是非よろしく願います。」

岡本愛光理事「発刊はいつ頃になるのでしょうか。」

永瀬智委員長「今年の12月末頃を考えていましたが、色々な議論が出た場合には、もう少しを遅らすことになります。」

岡本愛光理事「世界の動向ということで、FIGOの今のWOMEN'S CANCERのCOMMUNITEEのChairmanが、そういった点を聞いて検討してくれます。少し時間をいただければ、その回答をもらえるかと思えます。」

木村正理事長「ありがとうございます。他よろしいでしょうか。それでは、色々と意見が出ましたの

で、引き続き検討いただき、慎重に進めていただくことをお願いします。」

(ハ) 周産期委員会

①会議開催

令和4年度 第1回周産期委員会 (Web会議)	6月8日
-------------------------	------

- ②日本における COVID-19 妊婦の現状～妊婦レジストリの解析結果 (2022年6月7日付報告) について、ホームページに掲載した。 [資料: 総務3]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①会議開催

第1回女性ヘルスケア委員会 (Web会議)	6月2日
-----------------------	------

②書籍頒布状況 (5月31日現在)

	5月販売数	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステロン配合薬ガイドライン 2020 電子版付	140冊	5,480冊
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	14冊	4,042冊
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用ID・PW付	26冊	1,630冊
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	7冊	1,294冊

- ③『婦人科特定疾患治療管理料』算定のための研修に関する新入会員への周知について

[資料: 総務4]

青木大輔副理事長:「婦人科特定疾患治療管理料」算定のための研修に関する新入会員への周知について、保険診療ができなくなってしまうので、これをしっかり周知していただきたいということです。これについてご意見ございますか。各教室にも新しい先生が入って、異動の時期も過ぎましたので、そのあたりを周知していただく必要があろうかと思えます。よろしく願いいたします。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 「旧優生保護法検討委員会」について

- ①旧優生保護法に関するアンケート調査の報告書を冊子として作成し、会員に配布する予定である。
②第74回日本産科婦人科学会学術講演会 シンポジウム「旧優生保護法を考える」を開催し、学会からの宣言を行う予定である。

(4) 「75年史小委員会」について

①会議開催

令和4年度第2回75年史小委員会 (WEB開催)	7月22日 (予定)
--------------------------	------------

- ②前回作成した「50年史」掲載分から現在まで、25年分の本会歴史について過去の学会誌掲載記事等を基にまとめている。

久具宏司委員長「現在までの進捗状況ですが、25年前に作成された50年史以降、現在までの25年間の本会の歴史について、過去の学会誌に掲載されている記事等を纏めている最中です。」

③記事とするための「座談会」を2回開催する予定である。

第1回座談会	令和4年11月5日(土)(予定)
第2回座談会	令和5年1月27日(金)(予定)

第1回は【1997年～2010年】、第2回は【2011年～2022年】のトピックに分け、それぞれご参加頂く先生を検討している。

久具宏司委員長「また、記事の中に加えるための座談会を2回開催する予定にしています。第1回の座談会を11月5日、第2回を来年1月27日に予定しています。第1回は1997年から2010年に起こったことについて、関係者の先生方にお集まりいただきます。第2回は2011年から2022年に起こったことについて、関係の先生方にお集まりいただくということで、それぞれ2時間ほどを予定をしています」。

④カラー頁の企画として『写真』を掲載する予定である。『写真』について、「委員会活動関連(渉外の海外派遣や未来委員会のイベント等)」については各委員会に確認中であり、「過去開催した学術講演会」についても担当された大学宛てに問い合わせのうえ収集する予定である。

久具宏司委員長「カラーページの規格として写真を掲載する予定にしています。50年史では写真があまりなかったですが、今回は写真を掲載するということで、委員会活動関連、過去の学術講演会関連についての写真掲載を計画しています。」

(5) 本会ホームページに、医育機関(大学)に限定した産科婦人科学関連の教授、特任教授等についての公募コーナー新設を承認いただき、広報委員会に検討をお願いしたい。

青木大輔副理事長「本会ホームページに医育機関(大学)に限定した、産科婦人科学関連の教授、特任教授等についての公募コーナーの新設をご検討いただきたいということです。先般、ある大学から産科婦人科関連の特任教授の公募について本会に依頼がありました。これを機に、このような公募コーナーを新設するということではいかがでしょうか。」

木村正理事長「本件、よろしいでしょうか。特に、近年は産婦人科が関係するゲノム関係とか、遺伝関係とか、色々なポストが出てきていますので、産婦人科医にとっても道が開けるといいうメリットも出てくるかと思えます。広報委員会でご検討いただけますでしょうか。」

青木大輔副理事長「はい。ありがとうございます。それでは広報委員会の工藤委員長、よろしくお願いいたします。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 令和5年度の日本産科婦人科学会会議日程(案)

[資料:総務4-1]

青木大輔副理事長「例年この時期に2年分の予定をフィックスさせていただいています。この予定の確定は次回の9月の理事会ということになりますので、先生方には他の会議予定に関しましてもチェックして頂き、不都合があれば事務局にお伝えください。」

[II. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

① 会員への周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載したい。

依頼元	内容	資料
医政局地域医療計画課	自動体外式除細動器及び体表用除細動電極の適正使用に関する情報提供等の実施について	総務5
医政局地域医療計画課	救急蘇生法の指針2020(市民用)の周知について	総務5-1

子ども家庭局母子保健課	不妊症・不育症におけるピアサポーター等の養成に係る広報啓発業務について	総務 5-2, 3
医薬・生活衛生局医薬安全対策課	コロナウイルス修飾ウリジン RNA ワクチン (SARS-CoV-2) に係る「使用上の注意」の改訂について	総務 5-4
保険局保険課	出産育児一時金等の受取代理制度の届出について	総務 5-5
医政局医事課	医師の勤務環境把握に関する調査への協力依頼	総務 5-6

本件について特に異議はなく、全て全会一致で承認された。

- ②子ども家庭局母子保健課長から、NIPT等の出生前検査の適切な運用について、7月1日より運用が開始される新指針の遵守と会員周知依頼を受領した。[資料：総務 5-7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医師会・日本医学会

- ①会員への周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載した。

依頼元	内容	資料
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課	アテゾリズマブ (遺伝子組換え) 製剤の最適使用推進ガイドライン (非小細胞肺癌、小細胞肺癌、乳癌及び肝細胞癌) の一部改正について	総務 6
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課	ニボルマブ (遺伝子組換え) 製剤の最適使用推進ガイドライン (非小細胞肺癌、悪性黒色腫、頭頸部癌、腎細胞癌、古典的ホジキンリンパ腫、胃癌、悪性胸膜中皮腫、高頻度マイクロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する結腸・直腸癌、食道癌、原発不明癌 及び尿路上皮癌) の一部改正について	総務 6-1
厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課	自動体外式除細動器及び体表用除細動電極の適正使用に関する情報提供等の実施について	総務 6-2
厚生労働省医薬・生活衛生局 医療機器審査管理課 厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課	「医療機器及び体外診断用医薬品のリスク管理計画の策定及び公表について」の一部改正について	総務 6-3

- ②会員への周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載したい。

依頼元	内容	資料
厚生労働省医政局総務課	「「広告が可能な医師等の専門性に関する資格名等について」の一部改正について」の一部訂正について	総務 7

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 成育疾患克服等総合研究事業

- 「妊娠 28 週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発」(PPROM-AZM 研究) への協力要請を、当研究代表者である大口昭英先生 (自治医科大学) より受領した。[資料：総務 7-1]

〔IV. その他〕

(1) NPO 法人ファインより、「Fine 祭り 2022 知りたい！妊活のリアル」（10月23日 Web 開催）への後援名義使用依頼を受領した。 [資料：総務 8]
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 国連人口基金中日事務所、NPO 法人女性医療ネットワークより、7月11日世界人口デー「世界人口白書 2022」日本語版発表記念オンライン・イベントへの後援名義使用申請を受領した。 [資料：総務 9-1, 9-2]

青木大輔副理事長「プログラムが載っていますのでご覧いただき、何か気になる点があればご発言ください。」

木村正理事長「今回のウクライナの寄付も、この国連人口基金を通して寄付したと思いますので、ちゃんとした方だと思います。この NPO 法人の方がちょっと、よくわからないのです。」

青木大輔副理事長「ご存知の先生いらっしゃいますか。」

中井章人理事「プログラムの中の名前を拝見した限り、産婦人科医会関係の理事とか、そういった先生も入っていらっしゃいます。」

青木大輔副理事長「初めて講演依頼を受ける NPO 法人の場合、内容が良くても、団体としての COI はどうなのかなというようなことがいつも気になっています。ただ、今回の場合はメンバーを見ると大丈夫ではないかと感じます。よろしいですか。」

大須賀稔理事「私は少し関わらせていただいたこともありますが、問題のある業者と絡んでいるとか、そういった印象はないです。SRHR に関して言いたいことをどんどん発言されている会ということでございます。」

青木大輔副理事長「ありがとうございます。それではお認めするということでよろしいでしょうか。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団より、2022 年度研究助成金募集のお知らせを受領した。6月9日に本会ホームページに掲載し、会員に周知した。 [資料：総務 10]

(4) カレン・リヨン基金より、日本の若い女性の HPV ワクチン接種啓発のためのビデオ作製への協力依頼を受領した。当基金は、国際ヒトパピローマウイルス学会の下部組織である Asia-Pacific HPV coalition を支えている団体である。 [資料：総務 11]

宮城悦子時任理事「動画が出来上がった段階で、理事会メンバーの先生方に確認いただく予定です。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計 (万代昌紀常務理事) 特になし

3) 学 術 (岡本愛光常務理事)

(1) 会議開催

International Session 委員会 (JSOG Congress Award 選考委員会)

8月5日 (金) 【予定】

JSOG Congress Encouragement Award 選考委員会	8月5日(金)～6日(土)【予定】
優秀日本語演題賞選考委員会	8月7日(日)【予定】
健康・医療活動賞予備選考委員会	7月上旬【予定】
教育奨励賞予備選考委員会	8月中旬【予定】
筆記試験問題評価委員会	8月17日(水)【予定】
令和4年度第2回学術担当理事会	9月2日(金)【予定】
令和4年度第2回学術委員会	9月2日(金)【予定】
学術講演会評価委員会	10月11日(火)【予定】

(2) 他団体の特別賞推薦依頼について

① 「2022年度日本医師会医学研究奨励賞」推薦候補者について

理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼し、推薦期日までに2名の候補者推薦を受けた。本会より推薦できるのは各部門1名ずつであり、学術担当理事による選考の結果、お二人の先生を本会より候補者として推薦したい。

- ・田村功先生（山口大学、研究題目：in vitro ヒト着床モデルの作製による着床機構の解明、部門：臨床（外科系））
- ・三好剛一先生（国立成育医療研究センター 臨床研究センター、研究題目：胎児頻脈性不整脈の治療法の開発および実装に向けた症例登録体制の構築、部門：臨床（内科系））

[資料：学術1]

岡本愛光常務理事「他団体の特別賞推薦依頼について①2020年度の日本医師会が研修奨励賞、推薦候補者でございますが、二名のご推薦を受けました。そして各部門、1名ずつ推薦できるということで、学術担当理事による選考の結果、次のお2人を本会より候補者として推薦させていただきます。お1人目が田村功先生、山口大学臨床の外科系等の推薦、そして、国立成育医療研究センターの三好剛一先生、臨床内科系の推薦となります。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②他団体からの受賞候補者推薦依頼ならびに選考について

他団体からの受賞候補者推薦依頼（神澤医学賞、上原賞）を受領し、理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。神澤医学賞の推薦候補者は学術担当理事で選考を行い、第2回理事会（9月3日）に答申する予定。上原賞については、同財団への回答期日の都合上、学術担当理事に選考を一任いただきたい。

[資料：学術2、3]

岡本愛光常務理事「神澤医学賞と上原賞の受賞候補者の推薦依頼を受領し、理事及び各種委員会委員に候補推薦を依頼しました。神澤医学賞の推薦候補者は学術担当理事で選考を行い、第2回理事会（9月3日）に答申する予定です。上原賞については回答期日が9月2日という制限がございますので、学術担当理事に選考を一任いただきたいと思っております。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) プログラム委員会関連 特になし

4) 編集（加藤聖子副理事長）

(1) 会議開催

第2回和文誌編集会議・第2回 JOGR 編集会議（ハイブリッド開催）	7月22日
第2回編集担当理事会	9月2日

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：（5月31日現在）

[資料：編集1]

	2020	2021	2022
Pending / Withdrawn	49	68	321
Accepted	499	417	33
Rejected	1914	2115	652
Grand Total	2462	2600	1006

(3) 和文機関誌第75巻特集について

編集幹事より提案された特集案について、第2回和文誌編集会議にて検討予定である。

5) 渉外（大須賀穰常務理事）

(1) 会議開催

第74回日産婦学会学術講演会 海外ゲスト関連打ち合わせ（Web開催）	6月13日（月）
------------------------------------	----------

(2) 10月12-15日、ドイツミュンヘンにて開催の64. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Gynäkologie und Geburtshilfe e.V. (DGGG 2022) に、本会より木村正理事長、岡本愛光第75回学術集会長、大須賀穰渉外委員長、および若手医師3名（東京大学 浦田陽子先生、亀田総合病院 大井手志保先生、岐阜県立多治見病院 林祥太郎先生）を現地派遣の予定である。会期後の若手医師の病院研修は、フランクフルト、デュッセルドルフ、デッゲンドルフの病院にて実施の予定である。

(3) AFOG YGA の Top 10 papers に選ばれ、AFOG Congress 2022（5月23-26日、於：インドネシアバリ島、ハイブリッド）にてオンライン発表を行った永易洋子先生が3位に入賞した。

[資料：渉外1]

(4) JICA 草の根技術協力事業 カンボジア「女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト」について

7～8月に春山怜医師（国立国際医療研究センター：NCGM）、神田未和助産師（NCGM）、竹内理恵診療放射線科技師（琉球大学）をプノンペンに派遣の予定である。

(5) Royal Australian and New Zealand College of Obstetricians and Gynaecologists (RANZCOG) より木村正理事長宛に、10月10～12日にオーストラリア ゴールドコーストにて開催の RANZCOG 2022 Annual Scientific Meeting への招待状が届いた。

[資料：渉外2]

(6) AFOG より JOGR Corresponding Editorial Board members 推薦の依頼を受け、編集委員会に人選を依頼したところ、既に本会より Editorial Board に複数のメンバーが入っているため推薦不要となった。

[資料：渉外3]

6) 社 保 (永瀬智常務理事)

(1) 会議開催

第1回社保委員会 (ハイブリッド開催)	7月22日 (金)
---------------------	-----------

- (2) 日本医師会疑義解釈委員会より、医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目 (03 疑 3033) の検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

7) 専門医制度 (関沢明彦常務理事)

(1) 日本専門医機構関連

①会議開催

日本専門医機構 2022年度第1回「専門研修プログラム委員会」「研修検討委員会(プログラム等)」合同会議	6月1日
日本専門医機構 令和4年度定時社員総会	6月29日【予定】

②2023年度専門研修プログラムの一次審査について

[資料：専門医1]

③産婦人科専攻医のための研修カリキュラムの改定について

[資料：専門医2]

関沢明彦常務理事「今回の研修カリキュラムの改定ですが、リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会から、研修カリキュラムの中にセクシャリティ・リプロダクティブ・ヘルス&ライツの概念を盛り込むべきであるという提言をいただいたことに対応したものです。また、加えて旧優生保護法検討委員会からの提言に対応し、母体保護法の現状と歴史、旧優生保護の問題点と、母体保護法への改正の経緯等について理解を促す目的でそのことを書き込んでいます。その他、下線部分が修正分になっており、表現や要望などを現状に合わせて修正しました。この研修カリキュラムについて他にもご意見が寄せられましたが、次年度以降は、各専門委員会に意見を伺って必要な改定は行いたいと考えていますが、今回はこの改定案で承認いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) サブスペシャルティ関連

①会議開催

サブスペシャルティ領域専門医制度における学会認定・機構承認に関する説明・意見交換会	6月23日
---	-------

関沢明彦常務理事「今後は、サブスペシャルティ学会の機構承認の学会認定サブスペシャルティ専門医は、基本領域学会で作るサブスペシャルティ連絡協議会で協議し、承認した後に機構に申請して機構が二次的な審査を行ったうえで認定することになります。今回、最初の募集を7月から9月までに行うとの通知があり、時間的には非常に厳しいスケジュール感で公募が行われるということになりました。産婦人科としては、本会のサブスペシャルティ連絡協議会を開催し、こういった募集

があったことを各サブスペ学会に周知するとともに、サブスペシャリティ学会の意見を伺って、今後の方針を検討していきたいと考えています。」

木村正理事長「サブスペシャリティの機構認定がうまく進んでいないという実情がございまして、学会認定サブスペシャリティ専門医を機構が認定するということを考えておられるようです。」

(3) 学会専門医関連

①会議開催

第1回研修システム小委員会	5月30日
第2回中央専門医制度委員会	6月26日【予定】
全国地方委員会委員長会議	6月26日【予定】

②e 医学会での指導医講習会参加回数の誤表示について

【資料：専門医3】

関沢明彦委員長から、e 医学会システムの不具合によって、指導医講習会の回数の誤表示が起こったこと、合わせて1700人以上がこの誤表示の対象になったこと、そのうち一部の指導医申請を行っている先生については、このことによって不利益が及ばないよう、明日の中央専門医制度委員会で検討して対応することが報告された。

8) 倫理 (三上幹男常務理事)

(1) 会議開催

第2回重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会	7月27日【予定】
第1回倫理委員会	8月2日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和4年5月31日)

ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録	110 研究 (47 施設)
体外受精・胚移植に関する登録	627 施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	627 施設
顕微授精に関する登録	603 施設
医学的適応による未受精卵子、胚 (受精卵) および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	173 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	12 施設

(3) 着床前遺伝学的検査に関する申請・認可について (令和4年4月6日)

・施設申請：50件《承認27施設（うち条件付き：6施設）》

【資料：倫理1】

・症例申請：1,026例《合計件（内訳）承認903例、非承認42例、審査対象外35例、取り下げ5例、照会39例、保留2例》（承認例のうち134例は条件付き）

【資料：倫理2】

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）審査状況・承認施設

【資料：倫理3】

・現在121施設である。

妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）の施設認定辞退の申し出に関して

[資料：倫理 3-1]

(5) 患者に学会からの正確な情報を届ける方法について

[資料：倫理 4]

三上幹男常務理事「患者さんに正確な情報をしっかり伝えるために、SNS 等を使った方が良いのではないかという提案を以前から広報委員会に検討依頼していましたが、炎上等の問題もあり、学会として活用するには難しいとの指摘がありました。そこで、倫理委員会として代替案を提案させていただきます。新しい案として今考えているのは、PGTに関するポスターを作成し、そこにQRコードを印刷しておくというものです。そのQRコードをスマホで読み込むと、本会ホームページの該当ページに飛び、PGT-M・A・SRの動画の視聴もできるというものです。このようなポスターを作成し、全国の産婦人科（病院・診療所）に送って、待合室に貼っていただくことを考えています。これによって、関心のある一般の方々には、本会からの正確な情報を得やすくなります。本会としても、ホームページに載せた情報を、必要とする方に伝えることが可能となります。また、ホームページ内にはご意見・質問を書き込み仕組みもありますので、ホームページが更に有効活用されることも期待できます。」

木村正理事長「情報提供の方法として、いろいろご検討いただきありがとうございました。こういった形で、情報を必要とする方々に正しい情報を届けるということは、本会にとって重要な使命であると思いますので、このような形で広報させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 公開動画 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-M）／不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査（PGT-A・SR）について

[資料：倫理 5]

三上幹男常務理事「PGT-Mについての動画は、既にホームページに掲載しております。PGT-A、PGT-SRについての動画も現在作成中で、9月には公開予定です。」

(7) NIPTの進捗について

[資料：倫理 6-1～7]

医学会 NIPT 運営委員会のウェブサイト

<https://jams-prenatal.jp/>

<https://jams-prenatal.jp/medical-inspection.html>

三上幹男常務理事「NIPTに関しては、倫理の8-1の資料に今後の予定をご覧いただけます。これから連携施設の受け付けが開始され、7月22日までということになります。そして6月末にWebで基幹施設の説明会が始まり、7月末には連携施設の施設名も公表されるということです。基本的にはその時点で開始されるということになります。昨年6月26日の令和3年度定時総会において、本会が作成した「母体血を用いた出生前遺伝学的検査（NIPT）に関する指針」は、医学会のこの出生前検査認証制度等運営委員会の指針が運用開始になった時点で、廃止するという事になっています。よって、連携施設が公表された時点で、本会のホームページで本会の旧指針は廃止になったということを知覚することを考えています。基幹施設は全国で169施設が認められたということです。これまでの基幹施設は108施設でしたので、これに連携施設が認められると、かなり多くの施設が認められることとなります。」

木村正理事長「NIPTについては、これまで多くの先生方にご尽力頂いてきたわけですが、その甲斐あって、漸くこのような形で落ち着いてきたということでございます。また、日本医学会のホームページ掲載される資料も、ある意味で画期的な資料だと思います。」

(8) PGT-A に関しての企業の参入について

[資料：倫理 7]

三上幹男常務理事「この資料は厚生労働省の中の掲示板に、報道関係各位ということで貼ってあったパン

フレットです。基本的には、PGT-Aに関して、治療を受ける患者様全員に行っていきましょうという宣伝です。」

(9) 要望書（生命倫理課題を含む着床前遺伝学的検査（特に“不妊症および不育症を対象としたPGT-A）の自由診療に関する監理について国の関与を強く要望します）について [資料：倫理8]

三上幹男常務理事「PGT-Aに関しては、きちんと進めていこうというのが日本産科婦人科学会の立場です。生命倫理課題を含む着床前、特に“不妊症および不遺伝学的検査（不育症を対象としたPGTA）の自由診療に関する監理について公的な機関を設置し、どのように進めていくかを国レベルでしっかり考えて欲しいという要望書を国に提出することを考えている。」

木村正理事長「資料8の要望書を、厚生労働大臣、厚生労働省母子保健課課長に提出することでよろしいか。やはり、このような問題を本会一団で考えていくには限界というか、色々と制約が出て参ります。NIPTもそうでしたが、様々な方々の意見を聞きながら、国としての方針を決めるというような方向性になってくるべきかと考えます。よろしいでしょうか？」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

三上幹男常務理事：「この要望書に関しては、週明けに発信すると同時にホームページにも掲載します。また、本日の記者会見でも話しをする予定です。」

(10) 「重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査」に関する細則改定について

[資料：倫理9]

三上幹男常務理事「PGT-Mに関する見解細則において、不承認という言葉を使おうということになりましたので、『非承認』という言葉全て『不承認』と書き直す。ということです。」

木村正理事長「見解細則の文言の訂正ですが、よろしいでしょうか。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(11) 某ART クリニックからの申請に関して

[資料：倫理10]

某ART 認定クリニックからの名称変更申請への対応方針につき、特に異議なく承認された。

9) 教育（渡利英道理事）

(1) 会議開催

第2回教育委員会	9月2日（WEB開催）【予定】
医学教育活性化委員会	5月31日（WEB開催）
	6月27日（現地開催）【予定】

(2) 書籍頒布状況（5月31日現在）

	5月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第4版（書籍版）	8	1,025
用語集・用語解説集改訂第4版（電子版付）	17	1,219
専門医試験例題と解説2020	38	1,331

専門医試験例題と解説 2021	57	1,169
2021 年度 専門医筆記試験過去問題・解説集	181	457
産婦人科専門医のための必修知識 2020	55	2,976

(3) 専門医試験作成委員会

6月3日に2022年度専門医認定筆記試験問題を教育委員長に提出し、印刷中である。7月21日に中央専門医制度委員会に提出する予定である。

10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長)

(1) 会議開催

令和4年度地方連絡委員会	6月1日 (WEB開催)
--------------	--------------

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (工藤美樹理事)

(1) 会議開催

第1回広報委員会 (WEB開催)	7月20日 (水) 【予定】
------------------	----------------

(2) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

(3) ホームページについて

ホームページアクセス状況について

[資料：広報2]

(4) 女性の健康週間に関する小委員会

①会議開催

第1回女性の健康週間に関する小委員会 (Web)	7月7日 (木) 【予定】
--------------------------	---------------

(5) HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会について

①会議開催

第1回HUMAN+/Baby プラスに関する小委員会 (Web)	6月10日 (金)
----------------------------------	-----------

2) 災害対策・復興委員会 (中井章人委員長)

(1) PEACE 訓練申請：3件 (2022年度)

(2) 6月19日に発生した石川県地震への対応

石川県能登地方で震度6弱の地震が発生したため、委員長を中心に石川県の災害対策都道府県担当者等に連絡を取り、適宜被害状況の確認を行い委員会にて情報共有が行われた。今回の地震による産婦人科施設での被害がないことを確認した。

3) 診療ガイドライン運営委員会 (杉浦真弓学会側調整役)

(1) 会議開催

ガイドライン婦人科外来編作成委員会	第2回(通算11回)5月26日(WEB開催)
-------------------	------------------------

(2) 2020 ガイドライン販売状況

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2020」頒布状況について(5月末日現在)

	5月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	90	15,709

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2020」頒布状況について(5月末日現在)

	5月販売数	累計販売数
書籍版(電子版付)	56	10,428

(3) コンセンサスマーケティング開催

第3回診療ガイドライン産科編2023 コンセンサスマーケティング	7月11日(月)14:00~17:00(ハイブリッド開催) 会場:パシフィコ横浜ノース1階「G4」 (第58回日本周産期・新生児医学会学術集会開催時)
第4回診療ガイドライン産科編2023 コンセンサスマーケティング	8月5日(金)16:00~19:00(ハイブリッド開催) 会場:福岡国際会議場5階「501」 (第74回日本産科婦人科学会学術講演会開催時)
第2回診療ガイドライン婦人科外来 編2023コンセンサスマーケティング	8月6日(土)16:00~19:00(ハイブリッド開催) 会場:福岡国際会議場5階「501」 (第74回日本産科婦人科学会学術講演会開催時)
第3回診療ガイドライン婦人科外来 編2023コンセンサスマーケティング	8月28日(日)13:30~16:45(ハイブリッド開催) 会場:ステーションコンファレンス東京5階「501」 (単独開催)

(4) コンセンサスマーケティングについては毎回ライブ配信を行っている。当日の円滑な進行のためにも、各回で検討するCQ&Answerを随時HPに公開し事前に意見や質問を受け付けている。

(5) 第2回診療ガイドライン産科編2023コンセンサスマーケティング開催費用について。

[資料:ガイドライン1]

(6) コンセンサスマーケティングでの議を経て、産科編および婦人科外来編2023の全CQ&Answer(案)を学会誌9月号より掲載し、パブリックコメントを実施する予定である。

4) コンプライアンス委員会 (若槻明彦委員長) 特になし

5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (増山寿委員長)

(1) 会議開催

令和4年度第1回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (Webハイブリッド形式)	6月25日
--	-------

(2) 4/16 開催「拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会」の資料公開と動画のオンデマンド配信をホームページ上で開始した。 [資料：サステイナブル1]

(3) 未来委員会との合同WGのアンケートについて

増山寿委員長「未来委員会との合同ワーキンググループによる働き方改革に関するアンケートが近日中に始まりますので、ご協力よろしくお願いします。これらの結果については8月の第74回学術講演会の指導医講習会のところで報告させていただく予定です。」

(4) 8月の日本産科婦人科学会学術講演会「指導医講習会」について

6) 産婦人科未来委員会 (吉田好雄委員長)

(1) 会議開催

サマースクール事前会議 (ハイブリッド)	6月3日
第1回若手委員会 (ハイブリッド)	8月6日予定
第2回未来委員会 (現地開催予定)	8月19日予定
第3回未来委員会 (現地開催予定)	12月8日予定
第4回未来委員会 (現地開催予定)	2023年2月24日予定

※会議開催は時間外開催を避けるためにあらかじめ日程調整を行った。

(2) サマースクール (SS)

6月3日(金)、TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにて第1回のサマースクール事前会議を開催し、36名のチューターに現地参加していただいた。

6月6日から6月20日まで募集したところ、定員120名に対して245名から応募いただいた。もともとCOVID-19感染拡大を危惧して定員を削減していたが、200名まで対応可能であることを確認し、準備を進めている。

(3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

第2回WOW!を2022年10月10日(月・祝)にハイブリッド形式で開催する。

6月27日(月)からチューター募集を開始する予定である。

7) 医療安全推進委員会（亀井良政理事）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和4年5月の医療事故調査制度現況報告を受領した。

[資料：医療安全1]

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構より「定時総会」（6月9日（木）ハイブリッド開催）の案内を受領した。本委員会委員長の亀井良政先生が出席した。

8) 公益事業推進委員会（小林陽一理事）

(1) 会議開催

第1回公益事業推進委員会（メール会議）

5月31日

(2) マルハニチロ株式会社より、本会宛ご寄附を頂戴した。

(3) 厚生労働省健康局との話し合いの結果、「生理の貧困」に関して本委員会のメンバーを中心に啓発の動画コンテンツ作成を検討している。「動画コンテンツ作成」の方針ならびに経費についてお諮りしたい。

[資料：公益事業1]

小林陽一委員長「厚生労働省健康局との話し合いの結果、先般から提案させていただいていた生理の貧困に関して、本委員会のメンバー宋美玄先生と高橋幸子先生を中心に、啓発の動画コンテンツの作成を検討しております。動画を作成にはある程度の経費がかかりますので、そのような方向で進めてよろしいでしょうか？ 内容に関しては、リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会の先生方と協議しながら作成し、理事会の方でお諮りしたいと思います。」

木村正理事長「こういった情報の発信は、我々の学会の使命に適うと思います。公益にも適うということだと思いますので、よろしいでしょうか？」

本件について特に異議はなく、全会一致で動画作成について承認された。

9) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（横山良仁特任理事）

(1) 会議開催

第1回リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会

6月21日（WEB開催）

(2) 本委員会の2022年度活動計画案について

[資料：リプロダクティブ1]

① SRHRをテーマとした会員用eラーニングのコンテンツ作成について

本会HP内に既存の「委員会情報」の箇所に、新しく本委員会のコーナーを設け、会員へのSRHRの普及推進を図る為にも、SRHRをテーマとした会員用e-learningコンテンツを作成し掲載することを検討している。

横山良仁委員長「包括的な性教育であるとか性暴力緊急避妊法などを、20分くらいのスライドの動画としてまとめまして、会員へのSRHRの普及推進を図って参りたいと考えている。」

木村正理事長「eラーニングということですが、専門医制度でもこの問題が出てきましたので、その単位をどこかにつけるかということについては専門医制度委員会の関沢委員長とご相談いただきました」

い。また、内容については素晴らしいと思いますが、加藤聖子先生の旧優生保護法に関する委員会で優生保護法に関して教育するということを宣言しておりますので、そちらとも連携をお願いします。このような方向性で進めて頂くことでよろしいでしょうか？」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ② 本会ホームページへの「リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会だより」の掲載について
本会ホームページに既存の「委員会情報」内に設置予定である本委員会のコーナーに、その時々のSRHRに関する話題や諸問題に関する委員会からの記事を『RH 普及推進委員会だより』として定期的に掲載することを検討している。

横山良仁委員長「重要な点は会員向けに、これは一般ではなく会員向けに学術的な立場から発信することです。例えば、中絶薬であるとか同性婚など、これはかなりデリケートな問題ですので、まず委員会内で原稿を回覧後、常務理事会等で内容をチェックいただいた後に発出することを想定しています。緊急性を要する場合は、理事長或いは副理事長にメール審議をしていただくことがあるかもしれませんが、1～2ヶ月に1回程度の掲載を考えています。」

木村正理事長「会員向けの啓発文書を定期的に出していただけるということですが、お進めいただくことでよろしいでしょうか？」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③SRHRに関する会員への意識調査について

2019年12月に本委員会が全会員向けに行ったアンケート調査をもとに、SRHRなどに関して現在会員の認知度と比較する為にも、再度同様の内容でアンケート実施を検討している。実施時期については、本年12月頃を予定しているが調整中である。

横山良仁委員長：「SRHRに関する会員への意識調査を行いたいと考えています。資料にありますように、2019年12月に委員会が全会員に向けて行ったアンケート調査があります。これをベースにして、ここ数年で会員の認知度がどうなったかということと比較する目的で、新たな質問内容も追加するが、原則同様の内容でアンケートを実施したいと考えています。本日の総会でSRHRの宣言文について報告しますので、具体的には半年後の12月頃を予定しています。」

木村正理事長「本件アンケート調査について、お進めいただくことでよろしいでしょうか？」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン普及推進委員会 (宮城悦子特任理事)

(1) 会議開催

第2回日本の子宮頸がん検診における HPV 検査導入方法提言のための WG (Web 開催)	8月2日(火)
---	---------

(2) 子宮頸がん予防 WEB カンファレンス「HPV ワクチン積極的接種勧奨再開後、私たちがすべきこと」
(2月7日開催)のYouTube配信の報告について [資料：子宮頸がん1]

(3) 第1回日本の子宮頸がん検診における HPV 検査導入方法提言のための WG (4月14日開催)の報告
について [資料：子宮頸がん2]

(4) 9月4日、「産婦人科・頭頸部外科ジョイントセミナー～HPVワクチンによるがん予防～（仮）」を開催の予定である。
[資料：子宮頸がん3]

11) SARS-CoV2（新型コロナウイルス）感染対策委員会（川名敬特任理事）

(1) 周産期委員会等で取りまとめられた国内での新型コロナウイルス感染妊婦のレジストリ報告をうけて、「新型コロナウイルスワクチンをまだ接種されていない妊婦のみなさまへ」をHPで一般の方に向けて掲載し、コロナワクチン接種勧奨に再周知を行った。
[資料：感染対策1]

12) 臨床研究審査委員会（万代昌紀委員長） 特になし

IV. 令和4年度定時総会運営について

(1) 代議員からの事前要望事項 [資料：総会1]

青木大輔副理事長「本日の定時総会では、三重県の二井栄代議員から要望事項を頂いております。

『タイムラプス胚培養などが先進医療として位置付けられ、生殖専門医の資格を持っていないと出来なくなった。このように峻別することには唐突感が強く、せめて2～3年の猶予期間を設けるべきではないか』といった内容です。先進医療は社会保険適用を目指すということが一つのポイントでもありますので、本件は社会保険委員会の永瀬智委員長に回答頂く予定です。」

永瀬智常務理事「基本的に先進医療は、臨床研究の位置付けで行われていますので、一度決められた枠組み、施設要件などの条件を途中で変更することは、かなり難しいと思われまます。ご指摘の点については随時伝えていきます。また、先進医療が終了した時点では、その要件について今度は保険収載の議論があると思いますので、その際に本会として強く要望していきたい。と回答する予定です。」

木村正理事長「本件はよろしいでしょうか？他にご意見ございますか？ では、永瀬先生、そのような回答をお願いします。」

V. その他

(1) 令和4年度議事録作成幹事予定表について [資料：その他1]

以上